

INFLUENZA QUESTION & ANSWER

厚生労働省が毎年実施している インフルエンザの抗体保有状況調査に ついて教えてください。

佐藤 弘

国立感染症研究所感染症疫学センター第三室

多屋馨子

国立感染症研究所感染症疫学センター第三室室長

わが国におけるインフルエンザの抗体保有状況は、厚生労働省、国立感染症研究所、都道府県の協力のもと実施されている感染症流行予測調査におけるインフルエンザ感受性調査により把握されています。毎年、本格的な流行開始前でワクチン接種前の健常者から採血し、当該シーズンのインフルエンザワクチン株3株およびワクチン株と別系統のB型1株を調査株として、都道府県衛生研究所において赤血球凝集抑制試験による抗体価測定が行われています。

図1にはA/カリフォルニア/7/2009 (H1N1) pdm09に

対する年齢群別抗体保有状況(抗体価1:40以上)の年別推移を示しました。このウイルスが初めて確認された2009年には多くの年齢群で10%未満(全体では8%)の低い抗体保有率でした。しかし、翌2010年(40%)には抗体保有率が大きく上昇し、とくに5~24歳の年齢群では40ポイント以上の上昇でした。これは、2009/2010シーズンの大流行で多くの者が感染し、抗体を保有したためと考えられます。このウイルスは次の2010/2011シーズンにも流行し、2011年(49%)にはさらに抗体保有率が上昇しました。その後、2011/2012~2012/2013

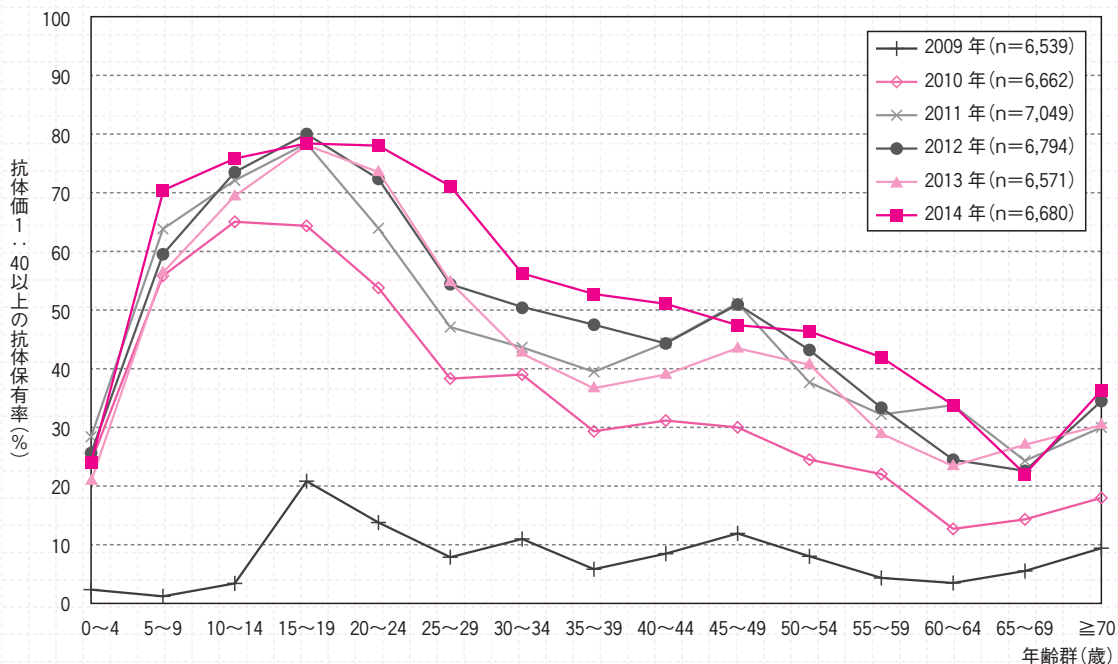


図1 A/カリフォルニア/7/2009 (H1N1) pdm09に対する年齢群別抗体保有状況：2009～2014年(2015年2月現在集計値)

Key Words ▶ 感染症流行予測調査 インフルエンザ感受性調査 抗体保有状況